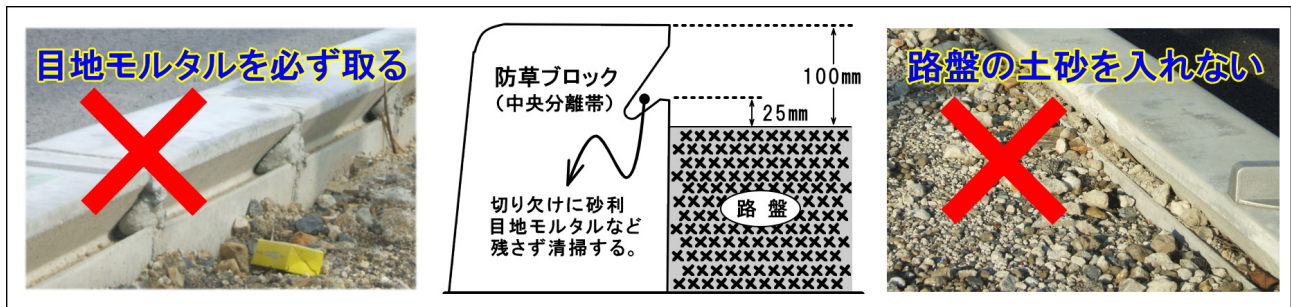


## 防草ブロック施工時の注意事項！！

工事現場では、元請会社の社員が施工するのではなく、下請や孫請の作業員やアルバイトによる作業で、路盤整備をする作業員はこの防草ブロックの技術や理論まで理解したうえで施工している作業員は殆どおりません。その為に防草部分である切り欠け部(屈光性に逆らう誘導路)の中へ、路盤の土や石を埋設したり不要な目地モルタルを除去せず施工する作業員も多いのが現状であります。(※留意 ①) この部分は防草効果が無くなります。

防草ブロックが普及し全ての工事に採用されるまでは、お役所の担当監督官と受注業者の監督者や担当者が現場の施工状況を十分に把握される必要があり、作業員に防草ブロックの技術もしくは施工手順を徹底していただき、手順通りに施工できるよう切にご指導お願い申し上げます。

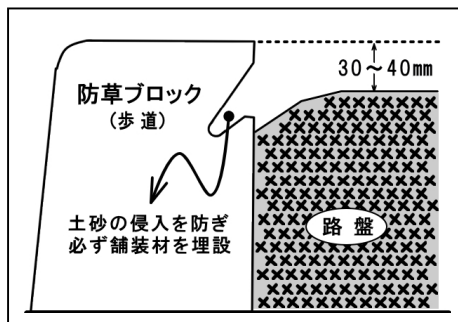
※留意 ①



中央分離帯のハリコン厚は、規格で 10 cmと決まっております。防草ブロックは上部から切り欠け部(誘導路)下の入口までは 7.5 cmとなり切り欠け内まで路盤材を埋設される施工が多く、その施工方法ではハリコン厚が 7.5 cm 以下と規格から外れた欠陥工事となります。防草の誘

効果は期待できません。それは施工く施工中の路盤厚やハリコン厚が不側での十分な指導監督に基づき改十分期待でき、防草効果を発揮で 3~4 cm ですので、路盤と舗装の

※留意 ②



導路となる目地は構築されず防草の後の写真のみで完了されることも多確認である現状も、現場の責任者善頂けますと、施工後の経年効果もきます。歩道の場合は舗装厚が、境界が切りかけ部となる誘導路の上

部となります。その場合も切り欠け部への路盤の土砂の浸入を防ぎ、必ず舗装材による切り欠け部天圧のうえ埋設をし、確実に誘導路目地を構築するよう励行願います。(※留意 ②)

発注官庁、各地域の行政による施工及び製品仕様の違いがあります。製品の製造や施工法に関する問題点などございましたら、何なりとご質問お問合せいただきますようお願い申し上げます。

[www.eco2004.com](http://www.eco2004.com)